

算数の授業の個別指導における授業改善

～個別指導における児童に考えをもたせるための指導～

協之島小学校 小嶋 里香

1 授業改善の視点

授業振り返り表より

- ・ 机間指導における個別指導の在り方

2 具体的な実践

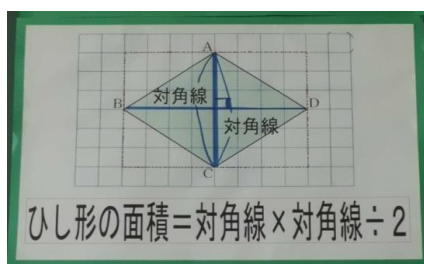
(1) レディネステストをもとに児童のつまずきを予想する

単元に入る前に、本単元に関わる既習内容を洗い出し、それに関わるレディネステストを行った。そして、どの程度児童に既習内容が定着しているかをとらえた。

これを基に、児童はどんなところでつまずくのか、誰がつまずくのかをあらかじめ予想し、そのつまずきに対する手立てを工夫した。

(2) つまずきに応じたヒントコーナーや学習掲示を準備する

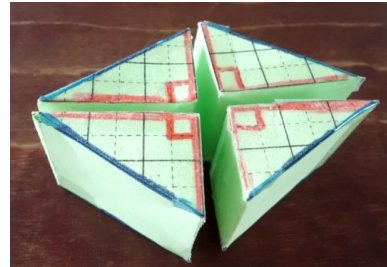
6年生の算数の単元「角柱と円柱の体積」では、三角形・平行四辺形・台形・ひし形・円の面積の求め方、直方体・立方体の体積の求め方との関わりが深いため、これらに関わる掲示を用意した。



【既習内容の掲示 ひし形の面積】

また、どんな角柱や円柱でも直方体に変形すれば、「底面積×高さ」がいえることを証明するため、直方体に変形して考えることができる立体をヒントコーナーに用

意した。



【ヒントコーナー 変形できる立体】

(3) 机間指導する際、つまずきが予想される児童から指導にあたる

課題に対する自分の考えを書く（個人追究）時間は限られているので、効率よく机間指導する必要がある。そこで、つまずきの予想される児童から個別指導にあたるようにした。

底面積が平行四辺形やひし形の角柱をどのように変形するのかが分からず、考えが書けない児童には、ヒントコーナーの立体を操作させた。これにより、児童は、どのように直方体に変形するかが分かり、その後、直方体に変形して体積を求める式をつくることができた。

3 実践を振り返って考えられること

レディネステストを行うことで、どのようなつまずきがあるのかを予想し、それに応じた手立て（掲示やヒントコーナー）を準備することができた。また、レディネステストで誰がつまずきそうか把握し、個人追究時に誰から机間指導にあたるのか計画を立てることができた。

これにより、机間指導で適切な指導・援助を行うことができ、一人一人の児童に自分の考えをもたせることができた。